

## 今日のキーワード 米労働市場に『需給のミスマッチ』はあるか？

米国の労働省が公表している「雇用統計」には、採用件数や離職件数等のデータがなく、雇用者数の変動が、採用の増減によるものか、あるいは離職者の増減によるものかまではわかりません。これを補う統計として作成されているのが、同じく労働省の「雇用動態統計」(JOLTS)です。JOLTSには、採用件数、離職件数のほか求人件数の統計も含まれているため、労働需給や需給の変動要因を捉えることが可能です。

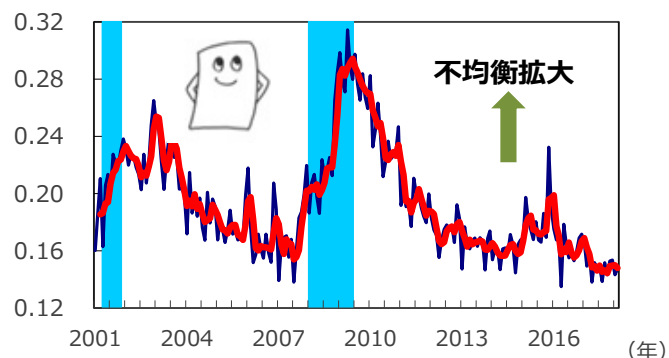
### ポイント1 求人件数、採用件数とも拡大基調を続けている 最近では求人件数が採用件数を上回る

- 最新のJOLTS (Job Openings and Labor Turnover Survey) によれば、18年2月における米国の求人数は605万件、採用件数は551万件、離職件数は519万件でした。それぞれ09年7月の220万件、09年6月の368万件、10年10月の378万件を底に増加を続けています。
- 求人件数と採用件数を比較すると、15年辺りから求人件数が採用件数を上回り、その後、両者の差は広がる傾向にあります。強い求人(労働需要)に労働供給が追いついていないもようです。

### ポイント2 労働需給の不均衡を測るミスマッチ指数 求人数と求職数のかい離を測る指標

- 仮に労働需給にミスマッチが生じているならば、それを是正しようとする力が働き始めます。このような調整の圧力が強まってくると、景気後退に陥る可能性が高まります。それでは、実際に米国の労働市場で『需給のミスマッチ』は生じているのでしょうか？
- 労働需給の不均衡を測る指標に、労働需給ミスマッチ指数があります。この指数は、求人数(労働需要)と求職数(労働供給、求職数の統計はないので失業者数で代理)がどの程度かい離しているのかを、業種ごとに測定、統合し、指数化したものです。

【米国の労働需給ミスマッチ指数】



(注) データは2001年1月～2018年2月。青線が月次、赤線は3か月移動平均。

(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 米国労働市場に『需給のミスマッチ』は見られない

- 求人数が収録されているJOLTSが遡れる01年以降で見ると、労働需給ミスマッチ指数が上昇に転換すると、つまり労働需給の不均衡が拡大の方向に進むと、間もなく米景気が後退に陥っているのがわかります。
- 労働需給ミスマッチ指数は15年に上昇しましたが、16年の年初には再び低下し、その後も低い水準で推移しています。同指数から判断する限り、米労働市場に『需給のミスマッチ』はなく、米景気が近い将来、後退に陥る可能性は低いと見られます。

ここもチェック! 2018年4月 9日 良好な状態が続く米国の雇用統計 (2018年3月)  
2018年3月29日 米国経済と長期金利の見通し (2018年3月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。